

2019 夏期連続講座ご紹介

こころの「根っこ」をゆたかに

※ 午前の部 10:00～12:30 午後の部 13:30～16:00

1 友だちづくりの楽しい歌とあそび～障がい理解を助ける歌と教材～

講師：“まるたせんせ”（五島 丸太 氏）
元堺市立支援学校教員

8/7(水)
午前



講師は、お楽しみおじさん「まるたせんせ」の呼び名で、年齢や障がいのあるなしにかかわらず、いろいろな団体や施設でボランティア活動を行っておられます。ギターを使って歌あそび、手遊び、マジック、ジャグリング、似顔絵、面白簡単ゲーム、ダンス、コミュニケーション紙芝居など年間約 180 回の公演をされています。

発達に応じたゲームの組み立て方や盛り上げ方、子どもが思わず引き込まれてしまう“まるたせんせ”の技術と一緒に楽しみながら学びましょう。

2 「安心と自尊心」にもとづく学習障害理解と教育指導

講師：窪島 務 氏
NPO 法人 SKC キッズカレッジ（滋賀大キッズカレッジ）・滋賀大学名誉教授

8/7(水)
午後



「見えない障害」（読み書き障害）と格闘する子どもたちと向き合ってきた講師。「安心と自尊心」を基盤に、「障害」のある人間としてのさまざまな困難、しんどさ、つらさ、また可能性にしっかりと視点を当てつつ、彼らの主体的発達を目指してこられました。見いだしたのは「まじめ、がんばり（一所懸命）、やさしい」という彼らの本質。今年出版された著書『発達障害の教育学』（文理閣）では、10 余年にわたる滋賀大キッズカレッジの実践をもとに、発達障害とくに学習障害・ディスレクシアについて国内外の研究成果・理論モデルを詳しく検討・解説されています。

3 すべての子どもたちが生き生きと学べる授業や学校づくりとは

講師：窪田 知子 氏
滋賀大学教育学部准教授・大東市教育委員会巡回発達相談員

8/8(木)
午前



特別支援教育がスタートして 10 年。しかし、教室の中で「勝手に立ち歩く」「乱暴な言葉を言ったり、すぐに手が出る」「宿題に時間がかかり、覚えた漢字をすぐに忘れる」、行きしぶりや不登校など、“気になる子”を前に悩んでいる先生や保護者は少なくありません。「〇〇が苦手な子には〇〇の方法」という支援のノウハウだけでなく、“困っている子”の内面や発達の視点から彼らを理解し、障がいのある子どもだけでなく、すべての子どもたちにとって居心地のよい、いきいきと学べる授業・学校づくりについて、お話をさせていただきます。

4 子どもたちを性と生の主人公に～性と生の多様性と尊厳の時代の性教育～

講師：千住 真理子 氏
性のセミナー「せいかつをゆたかに」実行委員会代表
元堺市立中学校支援学級・支援学校教員

8/8(木)
午後



「彼らは性教育を受けると、自分自身を大切に、相手も大切にするようになる。そして慎重になる。『寝た子を起こすな』ではなく、起きている人も多い。正しい情報・科学で起こしていくことが大切である。性の学びは、彼らの年齢にふさわしい学びであり、彼らの世界を広げ、彼らの人生への励みとなるものである。」これは、障がいのある児童・青年の性のセミナーなど、積み重ねた豊富な性教育でつくんだ講師の確信だと思います。性と生の多様性と個人の尊厳に焦点を当てながら、性教育の実際とあり方についてお話をさせていただきます。

5 歌と語り『朝日を迎えにいこう』&対談

弾き語り公演：今枝 直也 氏 ひきこもり・不登校経験のある青年
対談：長岡 千代子 氏 元貝塚支援学校寄宿舎指導員

8/9(金)
午前



小中学校、専門学校時代の不登校、ひきこもり。仕事を転々としながら、支えとなった音楽活動の中で出会った彼女と結婚。「人はみんな重荷を背負って生きていくんだから、あきらめなさい」のことは道標に、家族のためにという目標をもって介護の仕事にチャレンジし始めた今枝さん。音楽活動（昨年、CD『朝日を迎えにいこう』を発行）や先生、ぽぽろや仲間との出会いと「自分づくり」の過程を語ります。

対談のお相手は支援学校時代の寄宿舎指導員・長岡千代子氏です。

6 本当の自己肯定感とは？～「自分が自分であって大丈夫」～

講師：高垣 忠一郎 氏
心理臨床家
立命館大学名誉教授・登校拒否・不登校問題全国連絡会世話人代表

8/9(金)
午後



講師は、登校拒否に 40 年以上関わり、親・教師とともに歩んでこられました。その中で早くから自己肯定感の大切さを説いてこられました。

近ごろ、自己肯定感がよく聞かれる言葉になりましたが、いろんな使われ方をしている感もあります。本当の自己肯定感とは？どうして大切なのか？じっくりお話をさせていただきます。

主な著書に「生きることと自己肯定感」「揺れつ戻りつ思春期の峠」「自己肯定感ってなんだろう？」「つい『がんばりすぎてしまう』あなたへ」など多数。